

提案シート（見本）

1. 発表タイトル（30字以内）

例：

「鳥獣害対策とジビエカフェで町を元気に」

2. 取り組む理由・動機（300字程度）

主語：私たちは

例：

私たちは、町内でのイノシシやシカによる農作物被害が年々増えていることを受けて、被害対策と地域活性化を同時に進めたいと考えました。捕獲した鳥獣を有効活用してジビエカフェを運営することで、地域の食材として循環させる取り組みを始めます。町民が集い、学び、楽しめる場を作りながら、鳥獣害の課題解決に取り組むことが動機です。

3. 町の将来にとっての成果・意味（300字程度）

主語：このプロジェクトは

例：

このプロジェクトは、鳥獣害の被害軽減だけでなく、町の新しい産業や交流の場づくりにもつながります。捕獲した鳥獣肉を町内で活用し、ジビエカフェで提供することで、地域資源を無駄なく活かすモデルになります。また、若者や観光客が参加できる活動として、町の魅力や地域経済の活性化に貢献し、次の世代にも持続可能な町づくりの基盤を残します。

4. 現状と課題（300字程度）

主語：現状は

例：

現在、町内の農地ではイノシシやシカによる被害が増加しています。農作物の損失や防護柵設置の負担が大きく、地域住民の負担も増えています。一方で捕獲された鳥獣肉は十分に活用されず、廃棄されることもあります。被害対策と地域資源の活用を両立できる仕組みがまだ整っていないことが課題です。

5. 具体的な実施内容（500字程度）

主語：私たちは

例：

私たちは、町内で捕獲されたイノシシやシカを適切に処理・加工し、ジビエカフェで提供する取り組みを行います。まず、安全衛生の研修を受けたメンバーで肉の処理と調理を行い、メニュー開発も行います。カフェでは町民向けの食事提供のほか、料理教室や鳥獣害対策の学習イベントも併設します。これにより、町民や観光客が鳥獣害の問題を知り、地域資源を活用する取り組みに参加できます。初年度は週末限定で運営し、徐々に回数や規模を拡大します。

6. 事業のプロセス・スケジュール

例：

2025年4月～6月：施設整備・安全研修・メニュー開発

2025年7月：プレオープン（試験運営）

2025年8月～12月：週末限定カフェ運営・イベント実施

2026年：運営回数の増加、収益の一部を鳥獣害防止活動に還元

2027～2029年：地域内の他のカフェやイベントと連携し拡大

7. 体制（メンバー、役割分担）

例：

リーダー：〇〇（全体企画・運営管理）

メンバーA：〇〇（肉処理・調理担当）

メンバーB：〇〇（イベント・広報担当）

協力者：町内農家・猟友会・役場鳥獣害対策室

8. 収支計画（3年以上）

例：

収入：カフェ売上 年60万円 → 3年目には150万円を目標

支出：材料費 年20万円、施設維持費 年15万円、研修費 年5万円

差引：初年度は赤字見込みだが、2年目以降に黒字化し、利益の一部を鳥獣害対策活動に活用

9. 役場に求める関与のあり方

例：

カフェ運営の安全基準や加工施設の利用許可に関する相談

広報支援（町広報誌・ホームページでの紹介）

補助金や施設利用の調整 ※具体的な補助金メニュー等あれば明記

10. 将来の展望

例：

将来的には、ジビエカフェが地域資源の循環モデルとなり、町の新しい観光資源として定着することを目指します。また、町内外の人々が集まる拠点として、鳥獣害対策や地域活性化の学びの場を提供し、持続可能な町づくりに貢献していきます。